

巻頭言

国際経営研究所所長 行川 一郎

2015年は5年半前に始まったTPP交渉が紆余曲折を経て一応の終結を見た節目の年となった。北陸新幹線開業も同年だがさて、実に多くの出来事があり、情報とニュースと事件のつぼの中で新幹線開業がいつまで記憶に残るだろうか。たとえば「山陽新幹線全線開通40周年－2015－」の大看板が博多駅コンコースにあったのだが、記憶の糸を辿ることはできなかった。

時とともに社会はめまぐるしく変わっていく。私たちはダイナミックな環境変化を所与のもの、当たり前のことと捉えてしまうが、その中で節目、節目を大切に振り返りと目標を見定める作業はPDCAサイクルの意義と重要性を持ち出すまでもなく、経営にも教育にも研究にも重要な事項である。私たちの辿ってきた道を振り返り、未来を見定める、その時に何よりも必要な鍵、重視すべきもののひとつ、それは“新しさ”ではないだろうか。そのような考えとつながる言葉として提示したのが本号でのテーマ「創」なのである。

本号の特集テーマ「創」であるが、これは2015年という今を切り取る言葉（＝注目された用語、流行語）の意味合いもあるが、従前の循環サイクルの限界を超え、別次元も含めて新たに飛躍するためのキーワードとしても捉え、テーマとしたものである。

さて、企業ビジネスや経営学、国際経営をはじめとして当研究所所員は専任、客員とも幅広い専門分野の方々が所属しているので実に多方面、多次元に広がる形で本号に寄稿していただけた。

本号では特集テーマの部門に2篇掲載の他、一般の論文2篇、査読論文1篇に加えて共同研究プロジェクト中間報告を掲載させていただいた。また客員研究員による書評も諸兄姉に興味を持って頂けると推すものである。近来にない玉稿の数を頂戴し、編集委員も事務局も嬉しい悲鳴を上げたが、どの論文、報文も皆様の関心を強くひくと確信している。それぞれ日頃の研究員の研鑽と研

究の結実であり、今後も成果発表と報告の場として『国際経営フォーラム』を支え、成長させていくために、ともに努力していきたいと心あたらにしているところである。査読付き論文を本誌に掲載する体制も整い投稿も継続して行われている。世に問うフォーラム誌としての一層の質的向上をはかっていくためにも所員はじめ関係各位のご理解とご協力を旧に倍して、僭越ながらお願い申し上げます。

大学や各種関係機関の研究倫理等に関する規程の整備と管理の強化が求められる今日、わたしたち研究員は改めて研究倫理を胸に刻み研究に臨んでいくことを改めて明記しておきたい。